

## 第3回

# 「益田市総合教育会議」会議録

と き 平成27年5月26日（火） 15:00～

ところ 市役所3階 大会議室

益 田 市

### 第3回 益田市総合教育会議

招集年月日 平成27年5月26日（火）15時00分～

招集場所 市役所3階 大会議室

#### 議事日程

1 あいさつ

2 議事録署名者の指名

3 議事

（1）益田市総合教育会議の運営について

4 その他

## 出席者

|         |       |
|---------|-------|
| 益田市 市長  | 山本 浩章 |
| 教 育 長   | 村川 修  |
| 教 育 委 員 | 平谷 太  |
| 教 育 委 員 | 永田 千秋 |
| 教 育 委 員 | 水上 芳枝 |
| 教 育 委 員 | 渡辺 隆  |

## 出席事務局職員

|          |       |
|----------|-------|
| 教 育 部 長  | 川原 敏之 |
| 教育総務課長   | 島田 博  |
| 教育総務課長補佐 | 寺戸 一弘 |

## 教育委員会職員

|        |       |
|--------|-------|
| 社会教育課長 | 大畑 伸幸 |
| 文化財課長  | 木原 光  |

会議傍聴者 1 名

島田総務課長      ご案内の時間になりましたので、第3回益田市総合教育会議を始め  
てまいりたいと思います。市長挨拶をお願いいたします。

山本市長      皆さんこんにちは。本日は大変お忙しいところ、5月の定例教育委員  
会に引続き、第3回の総合教育会議にご出席して頂きまして誠にあり  
がとうございます。また日頃益田市の教育行政をはじめ施政全般に  
渡りまして、ご理解とご協力頂き誠にありがとうございます。今日の  
第3回益田市総合教育会でございますけれど、1回2回と色々ご議論頂  
きました教育に関する大綱について、いよいよ最終的な詰めを行っ  
ていきたいと考えております。皆様方には、これまで色々ご議論頂き、  
また修正案等をたびたび送らせて頂いているところでございます。ま  
た、事前にお配りした資料等、また差し替ったものも今回提示させて  
頂いております。本当に今回で大綱の確定と言う事にしたいと思いま  
すので、何とぞ忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げ  
ます。ご挨拶と致します。

島田教育総務課長      ありがとうございます。早速議事の方に入って頂いたらと思いま  
す。進行は今までどおり市長で行って頂きたいと思います。

山本市長      それではまず、議事録署名者の指名を行います。本日におきまして  
は、永田委員さん、水上委員さんよろしくをお願いいたします。では、  
早速議事に入ります。教育に関する大綱についてです。先程申し上げ  
ました様に、今回を持って最終的に確定し、今6月の議会開会中でご  
ざいますが、今議会中に議会にお示しをしたいと考えています。した  
がいまして、ご意見につきましては、なるべくご意見の趣旨と、それ  
から文言等については、具体的な案をお示し頂いてご意見を賜れば  
幸いに存じております。では今日の案の説明をお願いします。

島田総務課長      それでは、お手元に案②と言う印刷物をお配りしています。先ず最  
初にご確認をお願いしたいのですが、前回の会議を踏まえまして、案  
①と案②をご提案と言う事で皆様に送っております。案①のパターン  
と致しましては、表紙を開いた見開きのところが、比較的小さなアユ  
の一生のイラストが載っております、大きく2つの目的、益田で学  
び育つ子供たちのために、というのと、ふるさと益田で活躍できる未  
来のために、という項目の中に、更に重点項目を2つずつ入れたもの、  
という構成になったものがあります。もう1つは、見開きのところ全  
体にアユの一生を大きくイラストを載せまして、そこに重点項目を4  
つをイメージしているものをお示ししております。そのページ構成を  
まずどちらにするのかと言う事をご確認頂きまして、具体的な話し合  
いの方に進めて頂いたらと考えております。

山本市長      ではページ構成、案①と案②ですけれども、これについてご意見如  
何でしょうか。

永田委員　私は、案②の方が良いなあと思いました。ぱっと見て誰もがあっと思えるので。

平谷委員　賛成です。

山本市長　それでは、案②を軸としてご議論頂きたいと思います。

島田教育総務課長　案②と言う事で、ページ構成を含めまして説明を簡単にさせて頂けたらと思います。今日お手元にお配りしている案②の方の資料ですが、表紙のところの四角に囲っているところに、「益田で学び育つ子ども達が、ふるさと益田で活躍できる未来のために」と言う、サブタイトルのまず用意した言葉だったのですが、これを表に出しまして、「教育に関する大綱」と言うのは、どの市町村も同じ様に大綱と言う名前で位置付けますので、益田独自の言葉としてそれを上に載せた形で構成しております。更にその下にこの大綱の位置付けと言いますか、他の計画とも合せまして、どういう目的で作成したのかと言う文章表現を載せております。そこには「人が育つまち益田」これは施政方針の中に出されました言葉の1つの「人が育つまち」と言うキーワードがありますので、それを前面に出しまして、「人が育つまち益田」の実現を目指し、次世代を担う子ども達が安全で安心して学習できる教育環境の整備と、益田で培った才能を益田で発揮できる環境の整備に向け、市長と教育委員会が連携し、ここが重要になってくるのですが、今までの教育施策は、独立していた教育委員会が進められていたものを市長と連携し、と言う事でここに強調しまして、「早期かつ重点的に」では、これが他の計画の中に全般としては定められておりますけれど、更にその中から早期かつ重点的に、と言う事をここに明確に打ち出しまして、取り組む施策の指針として、益田市「教育に関する大綱」を策定しましたと言う流れになっております。その下はアユの絵がありますが、アユの一生に位置付けた教育大綱になっておりますが、何故アユが出て来たのかと言う事、アユの存在を知らない方にとっては分かりにくくなりますので、ここで益田市の魚「アユ」というのを表示しております。そして次に開いたところは、アユの一生に位置付けた教育大綱になっておりまして、4つのキーワード、「学力向上を支えるための施策の推進」「教育と子育ての一体化」「キャリア教育・起業家教育による人材の育成」「ふるさと教育の推進」この4つを重点項目として掲げております。それぞれどういう意味合いなのかという、アユの成長にかけた言葉と合わせて説明書きを載せております。それぞれ4つを総合的に位置付ける1つのキーワード「ひとが育つまち益田」と言うのを大きく掲げまして、そこに何故アユに例えたのかという簡単な説明をそこに載せております。最終の4ページにつきましては、既に益田市の計画としては、市長部局での計画「第5次益田

市総合振興計画」「益田市人口拡大計画」「益田市子ども・子育て支援事業計画」がございます。そして、教育関係につきましては「益田市教育ビジョン」「益田市社会教育推進計画」がございます。それぞれに教育全般的な方針は既にありますので、この中で、この大綱がどういう位置になるのかと言う事を更にここで強調する形で載せております。「益田市教育ビジョン」「益田市社会教育推進計画」にそれぞれある中から、先程申し上げました様に、市長と教育委員会が連携・協働して、更に早期かつ重点的に推進すべきものとして指し示すものです。という説明を載せて、図で分かりやすくするためにそれぞれの計画から矢印をだしております。その大綱の4つの重点項目をそこに載せまして、その重点項目が更に今後どういう方針で進めて行くのかと言う事をそこに載せております。前回協議した時には、ここに具体的な施策名をそれぞれあげておりましたけれども、この大綱を受けてそれぞれの施策が今存在する訳ではありませんので、今後この大綱を受けて市長部局の連携が強化されて、更により良いものを作っていくと言う位置付けになりますので、今ある事業を載せるよりも、今後の方向性を載せた方が良いのではないかなと言う事で、方針の説明書きとしております。その内容等を今日ご確認頂きながら修正のご意見を頂けたらと思います。

山本市長      それではご意見を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。  
平谷委員      よろしいでしょうか。まず、最初のページからいかして頂きたいと思います。ここのメッセージのところですが、次のページの「ひとが育つまち」のところと関係してくると思いますが、「益田で培った才能を益田で発揮できる環境の整備」と言うように書いてありますが、この「益田で発揮できる」と言うのは、必要ないのではないかなと思います。白黒の資料で、外で活躍する事とか、外に出ることなく活躍する事とかが入っていたのですが、必ずこちらに帰って欲しいと言う思いはあると思いますが、どちらで活躍されても益田の人づくりと言う事で、これはこれで社会に貢献できるのではないかなと思っているのですが。やはり、益田で発揮する、益田に絶対帰って来ないといけないというメッセージを入れると、必要なのかな、とちょっと疑問に思いました。私としては、そういう協議の考えではなくて、やっぱり益田で培った才能を発揮できる環境の整備、と言う流れにした方がシンプルかな、と思いました。私の私見であります。

山本市長      確かに、このままのイメージだと平谷委員さんがおっしゃったように、外で活躍する事というのが評価されてないとか、思われてないと言う事と、もう1つは、アユは1回下界・外界に出るという事は、中学・高校そして益田で就職、と言う事が含まれないのでは、と言う両

方の懸念があったところです。難しい事なんですけども、発揮できる  
と言うのは、これは発揮すると言うように、発揮する事が可能である  
と言う風な意味合いに膨らましたと言う事なんです。ですので、市長  
部局と連携すると言う事は、そういった環境の整備、これは教育だけ  
では無く、産業振興も含めて、益田に帰って来れる、益田でも十分  
活躍できる、と言う事も念頭に置きながら進めていきたいという思い  
です。

平谷委員 わかりました。表紙のところは理解いたしました。

渡辺委員 市長さんが言われました事は十分に理解できますし、益田が二つあ  
そこで連なっていると、より益田を強調できるという事もあるかな、  
と言う風に感じて、これで良いかなという風に感じました。

山本市長 それと、従来から頂いたご意見、例えば学力と言うのが前面に出て  
いて、徳育・体育という要素が無いのではないかとご意見があり  
ました。それについては、せめてもの思いとしまして、この学力を支  
えるための施策の推進の中に、アユが育つ為の水や緑が美しく保たれ  
ていると、すなわち人間も自分の思い描いた夢を実現する為には、確  
かな学力が必要だと。この学力と言うのは、こういった水や緑の美し  
さを含めた学力と言う事で、ただ単にテストの点数だけでは無く、  
全人格的な学力という思いを込めたつもりです。それから、生涯教育  
の観点と言う事もお意見頂きました。それも将来に渡って学び成長し  
続ける為の基礎を子供の頃につけさせる。その子どもの頃についた学  
力と言うのは、今度大人になっても高齢化しても、死ぬまで成長し続  
ける事が出来る事になるんだと。また、学び続ける事が出来る地域と  
言うのも必要なので、アユが一番育つのも地域全体でのそうした取組  
みなんだと、と言う事で、少しでもそういう思いも含めさせて頂いた  
と言う事です。

平谷委員 よく理解いたしました。それで見開きのページの「ひとが育つまち  
益田」の文章の中で、ふるさとで活躍する事が出来るという内容があ  
るのですが、将来自身を持ってふるさとを語り活躍する事が出来る、  
と言う様な、語る事も、都会に出た方も含めて、ふるさとを語る事も  
非常に重要ではないかと思っていて、語り伝えていくと言うか、益田  
ってこんなに素晴らしい所だよっていうのを、そういう言葉があれば  
良いかなと思ったところです。それも含めて活躍すると言う事なのかな  
と思ったのですが。

村川教育長 今の、語るとか語り継ぐという言葉とか、取り組みなり、本当に大  
事な事と思っています。例の教育ビジョンでめざす子ども像の中にも  
「ふるさとを愛情を持って語り」という、同じ目的なり思いが入って  
おりまして、今の社会自体が伝承者と言いますか、大人の世代、更に

は三世代で言えば、おじいさん・おばあさん、この三世代が語り継ぐいわゆる伝承の仕組みと言うのが、非常にすたれると言うかおろそかになっていまして、その伝承する仕組みなり活動をもう一回見直す必要があると思っております。伝承者と言いますか先輩達に対する敬意を表す大元であると思います。そういう意味でも、ふるさとを語れる人間というのは、非常に大事な言葉だろうと思っております。

山本市長　　今、平谷委員からご提案いただきました。如何でしょうか。

水上委員　　私も、前回の時に言いましたが、気持ちの心の豊かさがちょっと、どこそこにあったら良いという意見を言ったのですが、語るという言葉は、やっぱり人と言うのが出てくるので、とってもその一言があるだけで、和やかというか人間味のある大綱になる様な気がするので、語るという言葉を入れたらちょっと違ってくるのではないかと思います。

山本市長　　そうしますと、将来、自信を持って、ふるさとを語り活躍する事が出来るよと、となると自信を持つの後の点を省いて、ふるさとを語りの後に点を付ける、活躍する事が出来るよ、という事にしましょう。この文章の頭に、アユがやがて遡上し戻ってくるように、という言葉が入っていますので、やはり戻って来て欲しいというのも残るかと思っています。ではその様に修正させて頂いてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。その他ご意見ございますでしょうか。

平谷委員　　先程市長がおっしゃったのですが、一度外に出てと言うイメージが無くて、この辺りはどういう趣旨で作られたのか。是非、世界というか世の中に揉まれて帰って来ていただくというイメージが、ちょっと見えなかったなど。絵としてですね。

島田教育総務課長　　このイラストにつきましては、この産卵しているところが、ちょっと最初の出来た絵が河口に近かったのです。河口から直ぐに海に出て海があったのですが、上流に登らせるために川を延ばして、海が減ってしまったんです。高津川全体をイメージすると、産卵場所というのが高津の飯田つり橋のちょっと上流だそうです。これ全体を高津川と位置付けて、川上が吉賀町辺りとして全体をイメージしてみると、ホントに河口に近い所なんです。元の絵は海岸線がもっとあるのですが、それへの修正は出来るのですが、更に海に広げるのは難しくて、産卵場所を河口に近づけるのか、上流に持って行くのかという選択になるかと思っています。

山本市長　　この、一番下のアユがいるところは海と言う事ですか、書いた思いとしては。

島田教育総務課長　　元の絵は、海に出ていましたが、切り貼りして海岸線を延ばしています。元の絵を持って参りますので。

山本市長 最初申し上げた懸念と言うのは、これだと1回出て行って帰ってくると言う事をイメージしている。そうではなくて、1回も外に出ないで益田で活躍する、という事も含んで良いのではないかと言う懸念もあるのではないかと言う事で申し上げたのです。元々はおいては1回外に出ているという思いでした。ただ確かにこの絵を見ると、外に出て帰ってくると言う事で、本当の思いとはズレていると言う事です。出るイメージとして、平谷委員さんとしては、1回は海に出ていくと言う事をわかるようにされた方が良いと言う考え方ですね。他の委員さんは如何でしょうか。アユの生態は確かにそうなんですよね。1回海に出ますので、海に出ていると言うのが分かる方がよろしいですかね。

渡辺委員 アユの姿も、この表紙には綺麗なアユが出ていますので、スマートなアユが登って行くようにした方が、理解しやすい様な気がするのですが。

平谷委員 これは、こういう冊子で出て活用されるものなのですか。こういう形で。中にはここだけを使ってぱっと掲示される事もあるのですか。

山本市長 こういう冊子でいきます。もう一度確認しますが、元の絵があって今のこの絵になっているのは、サイズの関係で若干修正を加えたと言う事ですか。

島田教育総務課長 産卵場所が河口に近くて、割と海辺で産むと言う誤解をしやすかったので、川の堤防を延ばしました。

山本市長 アユの絵については、改善の余地がありますか。

寺戸教育総務課長補佐 社会教育課の嘱託の人に書いてもらってなので、可能は可能かと思いますが。

永田委員 アユに見えないかな。

平谷委員 先程のアユの件はよろしくお願いします。私が言いたしたと思いますので。アユの町益田なので、もう少し見えるように。別件で、このページで1つの資料になるのなら、表紙の方に、益田市「教育に関する大綱」と言うので立派に示されているので、ここの上の中のところは「ひとが育つまち益田」で、下のメッセージがその下に入っていけば良いのではないかと思います。同じ事をここに載せるよりは、ここで市長が言われている「ひとが育つまち益田」というので、益田と言うのはこんな感じなんだと、ひとが育つんだなというイメージがあって、それだけではまずいなと言う事であれば、こちらの右下の辺りに益田市「教育に関する大綱」という事で放り込んであれば、効力としては十分あるのではないかと思います。

山本市長 今のご提案ですと、上に「人が育つまち益田」、右下に「益田市「教育に関する大綱」」と言う事ですね。今のご意見は如何でしょうか。

水 上 委 員      合せてですが、文字の太さを出来れば4つの項目のところ、ちょっと視覚的に訴えた時に、説明の文字ともうちょっと太くしてもらったら分かり易いのではないかと思います。

平 谷 委 員      こちらの白黒の資料では、中・高校生分と言う事でコピーされていますが、これがイメージしやすいと思ったのですが。

島田教育総務課長      これに関しましては、それぞれ重点項目の上に、アユの成長期に引っかけた言葉があります。それをそのままアユの成長期と人間と置き換えていくと無理があると言うところで、どこに教育の重点項目を重点的に施していくのかと言う思いで、小中学校の時期なのか、乳幼児期から小学校にかけての時期なのか、そういうところをここに拾いだしているのですが、それを明確にこの中に入れていくのか、説明を求められた時にそういう説明をしていくのか、という選択でこのところでイメージしやすいように吹き出しで載せているのですが。その表示をどうするのかと言うところで、課題として残っているところです。

平 谷 委 員      そういう意味では、分かり易いのですが、逆にこれでしばってしまおうと動きがとれなくなると言うか、協議の形で捉えてしまおうと言う事になりかねないのではないのでしょうか。私はぱっと見て分かり易かったなど。以前のこちらの初版の分では、ここにアユの季節ごとの説明があって、イメージが出来たのですが、この辺に来るのかと。ここになにもそういう引っ張るものが無いので、その中では中高成人の世代がこう言うところの、アユが育っていくところで存在すると言う事、何らかの施策をされるのかなと、直接繋がったので分かり易いと思ったのですが。逆にちょっと狭まる危険性があるなど、危険性というかそういうことにもなるのかと思いました。

水 上 委 員      私は逆に狭まりすぎて、例えば子供によって、キャリア教育・起業家教育による人材と言うのは、子どもの頃小学校の頃にメロンを見て、自分は農家を目指す気持ちになるかも知れないけど、こうやって中高成人と区切ってしまうと、ひとによって何がきっかけでなるか分からないので、やっぱり区切るのはちょっと狭く感じられるのではないかと。説明の中で使われるのは良いけど、文字にしてしまうとちょっとどうかなと言う感じがします。

山 本 市 長      事務局としてもこの白黒の方は参考資料として掲げないと言うことで、よろしいですね。

永 田 委 員      掲げない方が良いと思います。やっぱり教育に関する大綱なので、キャリア教育・起業家教育による人材の育成をぱっと上に出して、上にある「成魚期に活かされる素地を育む」と言うのは、下か一番下にする方が、あまりにも、アユアユアユアユで行くんですが、教育に関するものなので、それがぱっと出る方が、それはアユで言ったらこう

なんだよ、と言う方が良いかなと思います。

山本市長　　今のご意見は、括弧の中のを1つ下か一番下にした方が良いと言う事ですね。如何でしょうか。確かにそうですね。大事なのは、「ふるさと教育の推進」とか「教育と子育て支援の一体化」ですので、これをドーンと大きく、さっき水上委員がおっしゃったように、大きく目立つようにして、なお説明として目的に括弧を付けると言う事にして頂けたらと思います。私が提案して申し訳ないんですが、「清流日本一高津川で生まれ育った」と書いてあるのですが、悲観的に言えば日本一に無くなった時に、と言う事があるので、「清流高津川で生まれ育ったアユ」がと言う方が、ふと思ったのですが。策定期間が平成27年6月ですので、この時点では言えますが、後でケチがついては嫌ですので、これは「清流高津川で」と言う事にさせていただきます。

水上委員　　このアユの仔魚（しぎょ）期ですかね。ここは何故、振り仮名と言うか、他の資料は打っていましたのね。ここで止めた理由があるのですか。何か打ってある資料と打ってない場面と2通りあるので、何か意味があるのかと思ひまして。

島田教育総務課長　　これに関しましては、職員の中でも中々仔魚が読めなかったのも、どこかに入れなければならないと思いながら、構成の中でたまたま消えてしまったと言ういきさつだけです。普段中々使わない言葉なので入れた方が良くかどうかというところは確かにあります。

水上委員　　実は私も入れた方が良くと思ったから。次に来た資料では消えていたから、やっぱり入れないのかと思っただけです。

山本市長　　因みに仔魚（しぎょ）と言う時の仔（し）は、人偏が必ず付くのですか。

島田教育総務課長　　色々資料を見ますと人偏は、ワープロでもワードでも中々出てこないですが、検索するときには先ず「人」を出して「子」だして「魚」をいれているぐらいですので、中々仔魚（しぎょ）という言葉が中々出てこない状態でして。

山本市長　　私が聞いたのは、仔魚（しぎょ）という言葉に充てる漢字は必ずこの人偏が付く子どもなのか、と言う事です。ただの「子」の魚と言う書き方は無いのか。

島田教育総務課長　　アユの一生の資料を見てみますと、稚魚より前の段階になりますので、この仔魚（しぎょ）という言葉がありまして、この人偏が付いた「子」が使われています。

山本市長　　分かりました。振り仮名については如何でしょうか。付けると言う事で。確かに読めないのも仔魚（しぎょ）について振り仮名をふると言う事に。細かい話をすれば、仔魚と言う字は、成長を切れ目なくと言う括弧の中と、それから本文の、アユの産卵から海に出ていくまで

の仔魚期には、と2つありますね。最初に出る方に付けると言う事でよろしいですね。

水上委員 今日頂いた資料では、重点項目の前のアユの成長のところが無くなっていたので、この方がやはりすっきりしているので、ちょっとアユにこだわり過ぎてるところがあると思ったので、これは無くして良いのではないかと思います。

山本市長 今まで出された意見で、修正するところをもう一回列挙して頂けますか。

島田教育総務課長 表紙のページのところは特にありません。1ページ開いて頂きまして、一番上のトップのところに「益田市教育に関する「大綱」」を大きく打ち出していますが、これが表紙と重複すると言うところで、「ひとが育つまち益田」と言うのに置き換えまして、その下の文章をそこに入れる、と言う事です。

山本市長 と言う事は、益田で学び育つ子ども達がふるさと益田で活躍出来る、これも削除ですか。難しいですね。益田市「教育に関する大綱」が表紙にありますのでここには無くても良いですかね。それともあった方が。

平谷委員 益田市「教育に関する大綱」だけはあった方が良いと思いますが。学校とかはここを使う訳でしょ、イメージとしては。そしたらそこにはこれだけで大綱から来ているとイメージした方が良いので。

山本市長 益田市「教育に関する大綱」を右下に載せると言う事で。

島田教育総務課長 「ひとが育つまち益田」の下の記事ですが、その「清流日本一」の日本一を落とす、「将来、自信を持って、」のところの読点をはずして、「ふるさとを語り、活躍する事ができるように」と言う文面に変える、それぞれの重点項目のところですが、先ず重点項目の文字を太くする、そしてその上にアユに引っかけた時期がありますが、その記載を一段下にするか、若しくは文章の下に持ってくるか、という改正です。あと、仔魚（しぎょ）のふりがなです。

山本市長 下界に出る、というのが分かるようにすると言う事と、アユの絵をもう少し如実的と言うか。なるべく努力をさせていただくという事でご理解をお願い致します。

島田教育総務課長 それと「ひとが育つまち益田」なんですが、そこに色んな教育委員さん方との意見交換をする中で、一段階突っ込んだとこで、「人と人が繋がり」というキーワードを踏まえては如何か、と言う意見が、今日の段階では無いですが、普段の意見交換の中で出ておりまして、そこも合せてご協議頂けたらと思います。

永田委員 それは、私が言った事なのですが、人と人が繋がるという事は凄く大切に、全て色んな所で人が繋がっているから、色んな事が出来て、

そこが何か入ったら良いかなと言う感じがします。「ひとが育つまち益田」と言うのが既に出ているので、どうかなと思いながら今考えているところです。

山本市長 この大綱の4つの重点分野というのを端的に示すとなると、「ひとが育つまち益田」でいかさせて頂いた方が、良いのかなと、永田委員が言われる「人と人が繋がり」というフレーズは、今後何らの計画なり施策を作る時に、是非活かさせて頂くという事でご理解頂けますでしょうか。それから絵の話ですが、最初の著作権がついてる絵がありましたよね。あそこに了解を得て、使用させて頂くという選択肢は無いのですか。

島田教育総務課長 その選択肢はあろうかと思いますが、今ページを載せている人までは掴んだのですが、連絡先が今つかめない状態で、掴めればその交渉は出来るかと思っています。

山本市長 あの絵は中々良かったので、模索して見てください。その他ご意見ございますでしょうか。

永田委員 良いと思います。子ども達も大人もこれを見れば、益田市はアユでひとが育つまちなんだと言う事が図によって書かれてますし、分かり易いのではないかと思います。

平谷委員 ここのマスの中に、例えば左上の「成魚期に活かされる素地を育む」とあるのですが、一緒に入っているのを余りイメージが、良くないというかちょっと邪魔だなと思って。

山本市長 素地という言葉が重複している。

平谷委員 そうではなくて、欄の中はキャリア教育・・・というメッセージがあって、これは上の方の辺り出ているような流れの方が良いのではないかと。

山本市長 括弧の中が、これが外にあるという事。

平谷委員 ここはここでもう字が沢山あるので、訴えたいのは「キャリア教育・起業家教育」と言うのがドーンとあって、その下にメッセージがある方がシンプルかなと。

山本市長 先程の、「キャリア教育・起業家教育による人材の育成」の下に持って来るか、説明文の一番最後に持って来るか、を検討と言う話でしたが、この欄外に「成魚期に活かされる素地を育む」と言うのを持って来る方が良いのでは、という案がございました。色々検討し、印刷して、一番効果的かというのを判断させて頂いたらと思います。その他如何でしょうか。

大畑社会教育課長 アユの事について漁協の人から学んだ事で、このアユが何故良いのか少し解説させて頂きます。アユは年魚で1年間で、一日一日成長が早い魚であるという事、必ずしも高津川で生まれた子どもが、高津川

だけに上がってくるではないという魚ですから、よそで活躍するアユもおるといふ事なので、ある面すべての子ども達の夢を実現するという意味でも、良い魚かなと。鮭やマスと違って1年間ですので、そういう風な種の保存の関係があるのではないかという説があるという事です。仔魚期と稚魚の違いは、仔魚期というのは餌が食べれないので、海に出るまでのところで、食べずに海に出て、初めてプランクトン等々を食って大きくなって、それから元気になって遡上するんだそうですので、稚魚との違いはそこにあります。餌が食べられない、食べられずにそのまま何とか辿りついたら、海まで行くと食べて元気になる。辿りつかなかったら残念ながら死んでしまうという事だ、と言っておられました。以上アユについて。

山本市長 如何でしょうか。永田委員さんからは、これで良いのではないかと  
言うご意見を頂きました。かなり今日のご意見を頂いて改良して、一応、正案と言う事にさせて頂いてもよろしいでしょうか。ありがとうございました。因みに、の話ですが、私の生まれ故郷の滋賀県もアユの産地でして、滋賀県に伝わる言葉では、琵琶湖のアユは外に出て大きくなるという言葉がある。大畑課長が言いましたように、必ずしも琵琶湖に帰ってくるばかりでは無くて、よその世界に流れるアユがいるのですが、何故か琵琶湖にとどまるアユと言うのは小さい、それが下界に出ると大きくなると言われていて、そういう意味でも非常に私も高津川のアユ、親近感と言うか、感じているとことです。余談でした。

渡辺委員 教育大綱のイメージと言うのは、どこにも無いものを作りたいと言う  
思いは、皆さん思っておられると思うのですが、アユに例えてこうした形の中で作れた、と言うのは、私は凄く嬉しいなと言う風に思いました。

島田教育総務課長 事務局の方から1点修正の意見をご検討いただいたと思うのですが、  
最終のページなんです、教育と子育て支援の一体化の欄の方針のところで、一番最後の行のところで、「学校を中心として子ども達を育む機能を高めます」とあります。これが「学校を中心として」と言う文章で行くと、学校がやると言う風に誤解されてもいけないと言う事がありまして、学校施設を核としてとか、学校施設を中心にしてとか、施設という、あくまでもハード面での建物をという位置付けに変えてと言う風に思っています。

山本市長 確かに元は、学校施設を中心にして、と言う事でしたが、施設が無いと  
学校が中心になってやると言う風に解釈できますので。学校施設を核として、が良いのか。学校施設を活用して。

大畑社会教育課長 学校があまりでると、学校の先生がするというイメージが非常に強

くて、学校と言う言葉には。誤解を招く事になるかなと思います。

山本市長 学校施設を有効に活用して、が良いかもしれませんね。その様に修正させていただきます。それでは、今日頂いた意見に基づいて修正して、正案をお願いします。今後のスケジュールをお願いします。

島田教育総務課長 今後につきましては、皆さんのご意見を元に、最終的に市長決裁と言う形で策定を完了させていただきます。6月5日市議会におきまして、総務文教常任委員会の方で公表させて頂いて、最終日15日の全員協議会で再度公表と言いますか報告させて頂きたいと考えております。

山本市長 教育委員さんの皆さんに対して、最終完成版のお示しは。

島田教育総務課長 決裁が終了次第、皆さん方には郵送で送らせて頂きます。

山本市長 月末か、来月早々と言う事ですね。なるべく6月5日の前にお手元に届くように。

永田委員 ちょっとすいません。重点目標の学力の向上を支えるための施策の推進の2行目です。「学び舍ますだなど意欲を高め」ちょっと何か。「学び舍ますだなどで」とか、何かちょっと違和感が。

山本市長 学習意欲を高め学習習慣を定着させる「学び舍ますだ」などの取組みにより・・・検討すると言う事で。教育に関する大綱の策定については以上で閉じたいと思いますが、皆さんご議論ありがとうございました。それでは、その他といたしまして何かありますでしょうか。事務局何かありますか。

島田教育総務課長 ありません。

山本市長 それでは、今日も本当に熱心なご議論頂きまして誠にありがとうございました。以上を持って第3回益田市総合教育会議を閉じます、どうもありがとうございました。

終了時間 15時57分

平成 年 月 日

益 田 市 長

益田市教育委員

益田市教育委員